

(資料4) 平成20年度地方環境研究所等との共同研究応募課題一覧

内訳：27機関57課題

平成21年3月31日現在

地環研機関名	担当者 (所属)	課題名	国環研担当者 (所属)	タイプ		研究期間
				A・B・C	α ・ β	
北海道環境科学 研究センター	永洞真一郎 (環境保全部)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大 気の曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	3年
	姉崎克典 (環境保全部)	ダイオキシン類及びPCBsの発生源解析に関す る研究	橋本俊次 (化学)	B	β	3年
	五十嵐聖貴 (環境科学部)	摩周湖の透明度変化に関する物理・化学・生 物学的要因解析	田中 敦 (化学)	B	β	3年
	三上英敏(環境保全部水質環境科)	釧路湿原シラルトロ沼の環境劣化とその原因 の究明	高村典子 (リスク)	B	β	3年
岩手県環境保健 研究センター	高橋 悟 (衛生科学部)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大 気の曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	3年
宮城県保健環境 センター	大金仁一 (水環境部)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大 気の曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	3年
	佐々木久雄 (水環境部)	地球温暖化がもたらす日本沿岸域の水質変化 とその適応策に関する研究	牧 秀明 (水土壤)	C	β	3年
	北村洋子 (大気環境部)	北東部太平洋側における降水水中の鉛同位体比 測定によるアジア大陸からの越境大気汚染の 調査	向井人史 (地球C)	B	β	3年
山形県環境科学 研究センター	大岩敏男 (水環境部)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大 気の曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	2年
新潟県保健環境 科学研究所	武 直子 (調査研究室)	新潟県におけるオゾン高濃度現象の解明	大原利真 (アジア)	B	β	3年
群馬県衛生環境 研究所	大谷仁己(水資 源・環境グループ)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大 気の曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	3年
	飯島明宏(調査研 究グループ)	アンチモンを指標とした沿道大気における自 動車由来粒子状汚染物質の評価	大原利真・ 長谷川就一 (アジア)	B	β	3年
福島県環境セン ター	古山友美(調査分 析グループ)	猪苗代湖湖水のpH上昇の原因調査	田中 敦 (化学)	B	β	2年
茨城県霞ヶ浦環 境科学センター	糟谷正雄(大気環 境研究室)	関東地域における広域大気汚染のモデル研究	大原利真 (アジア)	B	β	3年
千葉県環境研究 センター	岡崎 淳 (企画情報室)	オゾンによる植物被害とその分子的メカニ ズムに関する研究	青野光子・ 久保明弘 (生物)	C	β	2年
	小林広茂 (水質地質部)	沿岸性植物プランクトンの自動画像解析シ ステムの開発研究	河地正伸 (生物)	B	α	3年
	半野勝正(廃棄物・ 化学物質研究室)	水生生物等を用いた最終処分場浸出水の簡易 管理手法の開発	山田正人 (循環C)	B	α	3年
埼玉県環境科学 国際センター	米持真一 (大気環境)	関東地域における広域大気汚染のモデル研究	大原利真 (アジア)	B	β	3年
	倉田泰人・川崎幹 生(廃棄物管理)	廃棄物の安定化に着目した品質評価技術の開 発	阿部誠・ 山田正人 (循環C)	B	β	3年
	長森正尚・長谷隆 仁(廃棄物管理)	埋立地ガスならびに層内保有水を対象とした 最終処分場安定化モニタリング	山田正人・遠 藤和人(循環 C)	B	β	3年
	渡辺洋一・磯部友 護・小野雄策(廃 棄物管理)	循環型社会物流システムに適合した最終処分 手法の開発	山田正人・ 朝倉宏 (循環C)	B	β	3年
(財)東京都環境 整備公社東京都 環境科学研究所	秋山 薫 (調査研究科)	関東地域における広域大気汚染のモデル研究	大原利真 (アジア)	B	β	3年
	山本 央(分析研 究科)	PCBの迅速測定法に関する研究	橋本俊次 (化学)	B	β	1年
	西野貴裕・佐々木 裕子 (分析研究部)	PFOS、PFOAの環境実態把握及び汚染源の推定	高澤嘉一・ 柴田康行 (化学)	B	β	3年
神奈川県環境科 学センター	武田麻由子 (環境保全部)	ブナ林衰退地域における総合植生モニタリ ング手法の開発	清水英幸 (アジア)	C	β	3年
	福井 博 (環境技術部)	最終処分場の安定度判定に関する研究	山田正人・ 遠藤和人 (循環C)	B	β	2年
川崎市公害研究 所	梶 一成 (都市環境研究)	川崎市における技術・政策シナリオづくりに 向けた統合的データベースの設計と構築研究	藤田 壮 (アジアG)	B	β	3年

地環研機関名	担当者 (所属)	課題名	国環研担当者 (所属)	タイプ		研究期間
				A・B・C	α ・ β	
長野県環境保全研究所	樋口澄男 (環境保全部)	湖沼における野生絶滅・絶滅危惧車軸藻類の保全と復元に関する研究	笠井文絵 (生物)	B	β	2年
	小澤秀明 (環境保全部)	環境試料中のダイオキシン類および関連物質の分析法に関する研究	橋本俊次・伊藤裕康 (化学)	B	β	2年
	村上隆一 (環境保全部)	山岳地域における揮発性有機化合物の動態に関する研究	横内陽子 (化学)	B	β	3年
	浜田 崇 (循環型社会部)	都市環境気候図(クリマアトラス)の内容充実に向けた大気汚染、植物季節観測による環境評価	一ノ瀬俊明 (社会)	B	β	2年
	中込和徳 (環境保全部)	鉛同位体比測定によるアジア大陸からの越境大気汚染の定量化	向井人史 (地球C)	B	β	3年
	堀内孝信 (循環型社会部)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大気の大気曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	3年
静岡県環境衛生科学研究所	河合 渉 (環境科学部)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大気の大気曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	3年
	河合 渉 (環境科学部)	静岡県内の河川の酵母ツーハイブリッド・アッセイ法による内分泌かく乱活性の評価	白石不二雄 (リスク)	B	β	2年
富山県環境科学センター	溝口俊明・近藤隆之 (大気課)	富山県における降水中の鉛同位体比に関する研究	向井人史 (地球C)	B	β	3年
	木戸瑞佳・近藤隆之 (大気課)	立山山域における大気エアロゾル粒子の化学的特徴に関する研究	西川雅高 (基盤ラボ)	B	β	3年
	溝口俊明・木戸瑞佳・近藤隆之・ (大気課) 山崎敬久 (生活環境課)	ライダーを用いた黄砂エアロゾル飛来状況に関する研究	杉本伸夫・松井一郎 (大気) 清水 厚 (アジア)	B	β	3年
福井県衛生環境研究センター	田中宏和 (保健衛生部)	北陸地方における産業廃棄物最終処分場(管理型)の安定化に関する研究	山田正人・遠藤和人 (循環C)	B	β	3年
名古屋市環境科学研究所	大野隆史 (大気騒音部)	光化学オキシダントと粒子状物質等の汚染特性解明に関する研究	大原利真 (アジア)	C	β	3年
	榊原 靖・鎌田敏幸 (水質部)	水辺地域の生物の多様性に関する研究	高村典子 (リスク)	B	β	3年
	朝日教智・榊原靖 (水質部)	土壌・地下水汚染物質の微生物分解に関する研究	岩崎一弘 (水士壤)	B	β	2年
	山守英朋 (水質部)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大気の大気曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	2年
京都府保健環境研究所	日置 正 (大気課)	都市大気エアロゾルの発生源寄与解明のためのレセプターモデルの高精度化	大原利真・長谷川就一 (アジア)	B	β	3年
	日置 正 (大気課)	日本海沿岸で採取したエアロゾル及び降水中の微量金属及び鉛同位体による長距離輸送現象の解析	向井人史 (地球C)	B	β	3年
	一三純子 (環境衛生課)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大気の大気曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	3年
大阪府環境農林水産総合研究所	和田峻輔 (環境情報部)	ライダー観測データを用いた近畿地方の対流圏大気環境の調査	西川雅高 (基盤ラボ)	B	β	1年
兵庫県立健康環境科学研究所	北本寛明 (安全科学部)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大気の大気曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	2年
鳥取県生活環境部衛生環境研究所	初田亜希子 (水環境室)	藻場の生態系機能による海域再生研究	矢部徹 (生物)	C	β	5年
	福田武史 (食品衛生室)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大気の大気曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	3年
福岡県保健環境研究所	田中義人 (環境化学部)	微細藻類が生産する有毒物質の分析に関する研究	佐野友春 (基盤ラボ)	B	α	3年
北九州市環境科学研究所	原口公子 (環境研究課)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大気の大気曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	3年
長崎県環境保健研究センター	古賀康裕 (環境科)	ライダーによる黄砂現象解明に関する研究	西川雅高 (基盤ラボ)	B	β	1年
鹿児島県環境保健センター	末吉恵子 (環境保健部)	In vitro バイオアッセイを用いる河川及び大気の大気曝露モニタリングに関する基礎的研究	白石不二雄 (リスク)	B	α	3年

地環研機関名	担当者 (所属)	課題名	国環研担当者 (所属)	タイプ		研究期間
				A・B・C	α ・ β	
沖縄県衛生環境 研究所	宮城俊彦 (環境科学班)	亜熱帯域島嶼における最終処分場の安定化メ カニズム解明に関する研究	山田正人 (循環C)	B	β	3年
	仲宗根一哉 (環境科学班)	サンゴ礁に対する地球規模及び地域規模スト レスの影響評価	山野博哉 (地球C)	B	α	3年
	大城直雅 (環境科学班)	微細藻類が生産する有毒物質の分析に関する 研究	佐野友春 (基盤ラボ)	B	α	3年

* 研究タイプA～C

A型共同研究：地環研等の研究者が自治体における国内留学制度を利用し、国環研において原則として1ヶ月以上にわたり共同で研究を実施するもの。

B型共同研究：地環研等と国環研の研究者の協議により、共同研究計画を定め、それに従って各々の研究所において研究を実施するもの。

C型共同研究：全国環境研協議会からの提言を受けて、国環研と複数の地環研等の研究者が参加して共同研究を実施するもの。

* 研究タイプ α 、 β

α ：国立環境研究所の研究者が申請する場合

β ：地方環境研究所の研究者が申請する場合